

太宰府高等学校

「基礎学力の定着を促す授業の工夫」

— ICTを活用した能動的な学習を通して—

## 1 研究開発テーマ及び内容

### (1) 研究開発テーマ

研究開発テーマの決定に際しては、まず本年度の「新たな学びプロジェクト」実施要項における「2目標」を、要素に分解することから始めた。すなわちこの目標がまず(1)において、

ア ALの視点に立った

イ ICTを活用した

ウ 授業改善を推進すること

次に(2)において、

エ 学校の特長や状況を考慮しながら

オ AL実施の環境を整備し

カ 新しい授業法の開発に取り組むこと

そして(3)において、

キ ALによって生徒が身に付けた資質・能力の適切な評価方法について研究し

ク その効果を検証すること

をそれぞれ求めるものと理解し、そのうえで事業全体の目標として(4)が据えられていると整理した。

そのうえでさらに、各項目について校内プロジェクト委員によって議論を深め、アについては主体性と認知の外化という二側面が存在するため、まずは前者に的を絞って「能動的」という文言をサブテーマに盛り込み、エについては「基礎学力の定着」を研究テーマとすることとした。

### (2) 内容

内容についてはまず、具体的方策として

ア 授業展開の中に、意見交換や発表といった「考えを深める」場面を設定する

イ 少人数のグループで「学びあう」場面を設定する

ウ 教員のICT活用技術とその使用頻度の向上を目指す

といった項目を掲げ、これらの実現により

エ ALの推進とICTの活用により、従来型の「聞く」授業から、「聞いて、見て、話して、考える」授業への転換を促す

ことができれば、ひいては

オ 能動的な学習を通して、基礎学力の向上と定着を図る

カ 主体性評価の方策について検討し、本校観点別評価の改善につなげる

ことが可能になると考えた。

※ 「新たな学びプロジェクト」実施要項における「2目標」の(1)～(4)(本文中下線部)については、本報告書p3を参照のこと。

## 2 研究実践の手順

### (1) 前期授業アンケート

県内唯一の芸術科を擁する本校にあって、実技系の教科・科目においては、授業改善の取組が相対的に進んでいるとの認識から、今回の研究実践については特に5教科を対象の中心に据えることとした。

そのうえで上述の具体的方策を実現していくその端緒として、まずは出発点を確認すべく授業アンケートを実施した。時期、内容等については以下のとおりである。

ア 時期

7月16日（木）

イ 内容

①生徒対象

ICTの活用やGW/PW（グループワーク/ペアワーク）、「振り返り」といった取組について、その実施率が理解度や能動性、協働性、認知の外化とどの程度相関しているか、選択式の無記名アンケートによって調査

②教員対象

ICTの活用やAL型授業に対する意識と使用頻度について、選択式・記述式を組み合わせた記名アンケートによって調査

ウ 結果

①理解度において学年による大きな差異は見られないものの、教科ごとに見た場合（図1）、地歴・公民や理科では他教科と比して相対的に理解度が低い傾向にあった。原因としては、生活知識や一般教養を素地とするこれらの教科に対して、本校生の適性が低い可能性が考えられる。

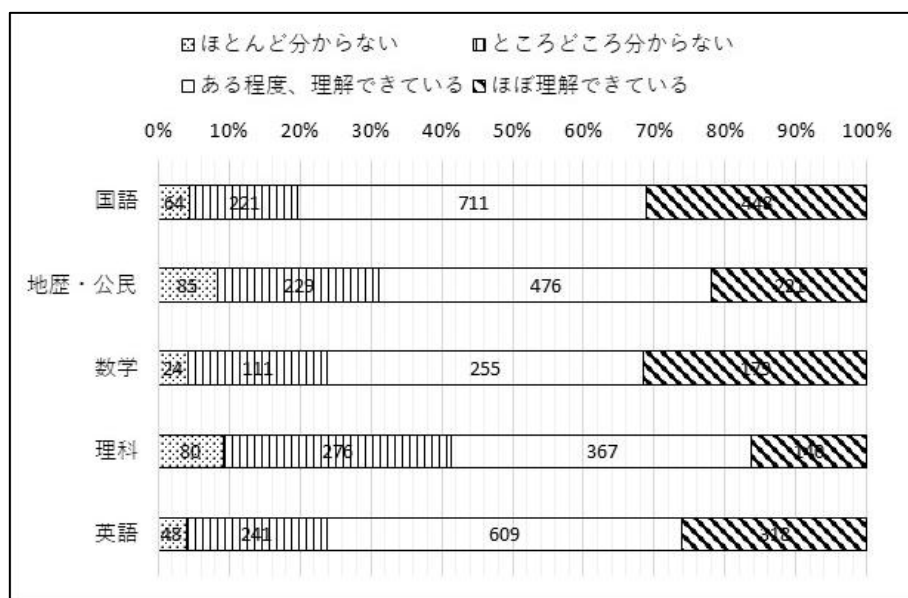


図1 前期授業アンケート結果（教科ごとの理解度）

②ALにつながると考えられるGW/PW（図2）や振り返り（図3）、またICTの活用（図4）のいずれにおいても、実施率の高低にかかわらず理解度に対する貢献度は高いというのが生徒の認識であった。

とは言え、GW/PWや振り返りにおいては、実施率が一定の数値を超えた場合に特に理解度に対する貢献度が高くなる傾向にはあり、また、ICTに係

るアンケート結果からは、教員が実施したと考えるほどには、生徒は実施してもらっていないとは感じていない実態も浮き彫りになっている。

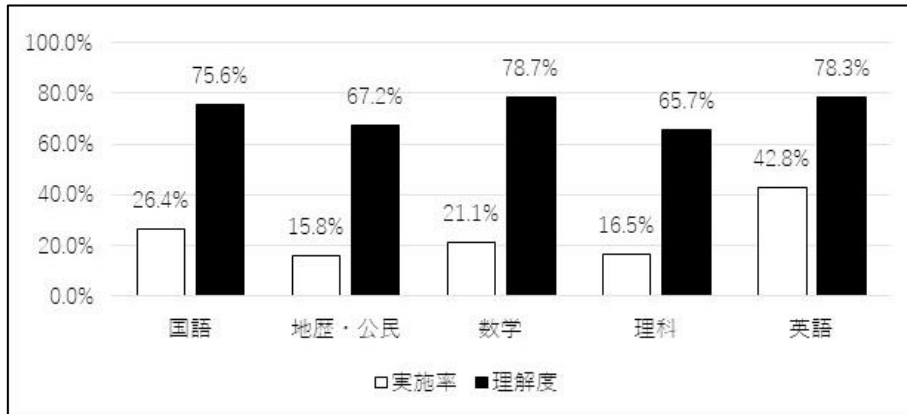


図2 前期授業アンケート結果（実施率と理解度の相関：GW/PW）

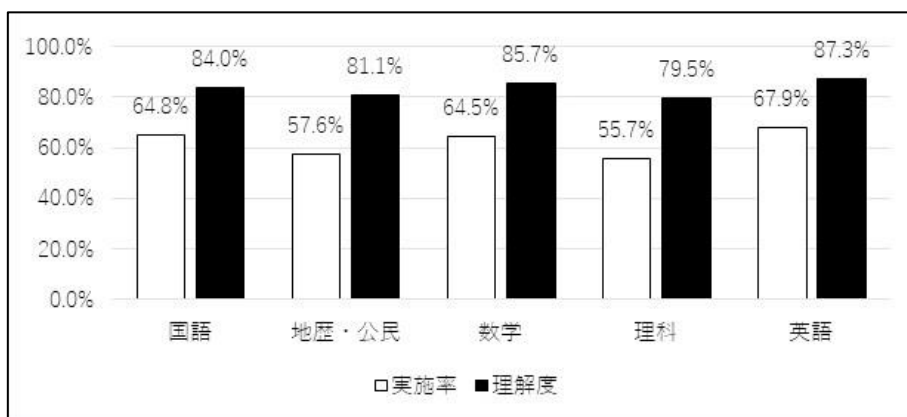


図3 前期授業アンケート結果（実施率と理解度の相関：振り返り）

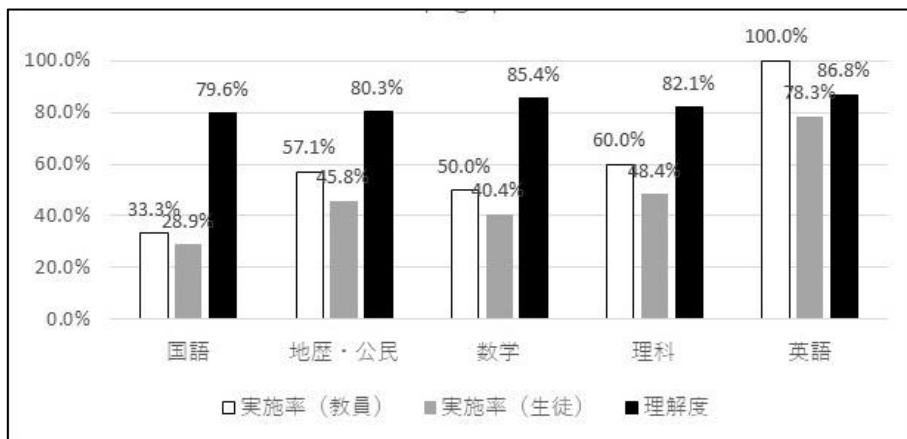


図4 前期授業アンケート結果（実施率と理解度の相関：ICT）

③以上のことから、研究実践においては当初の計画どおり、意見交換や発表といった「考えを深める」場面や、少人数のグループで「学びあう」場面を設定し、かつ積極的にICTを活用することで、理解度の向上や能動性につなげることができるのではないかと結論付けた。

④このアンケートを準備していく過程において、研究実践の方向性が明確になったことは大きな副次的効果であった。しかしながら同時に、アンケートという調査方法は生徒の主観に立脚するものであり、学力の定着を含む学習効果の測

定には馴染まないという問題点に気付きながらも、新型コロナウイルスによる感染症拡大に伴う休校措置で取組が遅れたこともあり、手を打てぬまま先送りにしてしまったことが悔やまれる。

## (2) 職員研修

アンケートの準備過程において校内プロジェクト委員間での議論が進むにつれ、今回の研究実践ではまず、本校において定着を目指すべき基礎学力とはどのようなものなのか、また実現すべき授業改善とはどのようなものなのか、定義すべきだとの機運が高まった。

その結果、研究授業に際しては全員が指導案もしくは簡易指導案を作成して臨むこととし、またそのための資料として、5教科では学科・コースごとの3年間の学習指導計画を策定し、それ以外の教科では主体性涵養の取組について集約することとした。授業において達成されるべき目標とそのための手段とが明示されることを狙ったことである。

8月25日(火)に実施された職員研修では、まず大学アドバイザーである福岡教育大学松尾剛准教授による基調講演により、研究実践を通して実現を目指すべき授業改善の方向性を提示していただいた後、これを具体化するために、3年間の学習指導計画、主体性涵養の取組、前期授業アンケート結果を共有した。

3年間の学習指導計画については、今後の更なる改善が待たれるところではあるが、芸術科における主体性涵養の取組の中には、完成作品や制作途中の取組について、パワーポイントを利用しての発表を行わせたり、担当者を決めて單元ごとの予習プリントを作成させ、学習の冒頭に生徒による単元の解説を行わせたりと、趣向を凝らした種々の考えを深める場面が見てとれた。

また、教育心理学の見地から「主体的・対話的で深い学び」とはどういったものなのかについて御講演くださった松尾剛准教授は、授業アンケート作成から研究実践の方向性確立に至るまでの経緯を踏まえたうえで、そもそも「分かる」とはどういうことなのか、「改訂版タキノミー」や「自己決定性による動機分類」、「TARGET 構造」といった考え方についても平易に説明してくださり、非常に得るところの多い研修となった。

これを受けて10月9日(金)の職員研修は、研究授業に向けての進捗状況を検証し、より良い取組につなげることを目的として教科別に実施した。この教科別研修では、事前に募った希望によって教科ごとに外部講師を招聘したのだが、実技系各教科の教員についても希望する教科会に参加することで、全職員による主体的授業改善の推進を目指した。

全職員が指導案もしくは簡易指導案の作成を目指している過程であるからこそ、講師の先生方による御講演にも自ずと身が入り、また講師の先生方も積極的に指導案の協議にまで御参加くださり、充実した研修となった。(次頁図5)



図5 教科別職員研修の様子

しかしながら、このタイミングで提出された簡易指導案の素案について検証を行い、また、先述の3年間の学習指導計画を確認しながら、数年前から本校にて実施されている観点別学習状況の評価について見直しを進めていく中で、課題が発見されもした。学習指導における目標設定や手立ての構築等において問題点が散見されたのである。

これまで、国立教育政策研究所による「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」はもちろんのこと、「改訂版タキソノミー」、「ガニエの学習成果の5分類」、「ケラーのARCSモデル」といった理論についても紹介し、適切な指導目標の設定と手立ての構築とにつなげてもらおうとしてきた。

これがかえって、参照すべき資料をいたずらに増やして煩雑にしまい、結果として混乱を招いたのではないかとの反省から、あらためて取組の趣旨と目指すべき授業改善の方向性を徹底するために、令和2年度県立学校教員研修資料をもとに、以下の点について共有を図ることとした。

ア 指導目標は、具体的に生徒がどのようなことが達成になったのかを想定して書く。「(生徒が)～できるようになる」といった行動目標で書く。抽象表現や数時間を要する指導目標(「～する態度を養う」など)は適当でない。

イ 手立ては、単に指導法の名称(ICTの活用、グループワーク等)に留めるのではなく、これを実践していくに際しての教師の具体的手立て(=手段。方法。すべ。策略。)を書く。

ウ 授業仮説の文例は、「○○の学習(単元・本時の学習内容)において□□を××すれば(手立て)、△△できる生徒が育つ(到達目標)であろう。」等

### (3) 研究授業

12月9日(水)に実施された研究授業は、全職員が午前中4時限のうちから任意の1時限を研究授業として設定し、相互に参観自由としたが、予想をはるかに上回って活気にあふれた、また見るべきところの多いものとなった。

この研究授業を通して、ICT機器の活用については

ア 教員による示範や生徒による模倣を容易にする

イ 板書の機能を拡張し、生徒の集中を高めることで注意を焦点化しやすくする

ウ 資料や図表を投影することで、机の空間をスクリーンにまで拡張する

といった機能があることを再確認し、また本校におけるAL型授業の推進については、

エ 改訂版タキソノミー(図6)においてそれぞれ異なった分類に属する内容について、プロジェクターによる投影、板書、ワークシートといった複数の媒体を用いて提示し、これらの媒体ごとに活動を進めていくことで、理解を段階的に高次

のものへと誘導する

オ 工作、実験、マグネット、まなボードといった教具の活用や、グラフを作図することで抽象的概念を具体化(いったん低次化)し、理解の支援や記憶の定着につなげることで、より高次の操作を可能にする  
といったことが行われているのではないかと考えた。

前期授業アンケートにおいて、相対的に理解度の高かった国語、数学、英語において前者エの取組がなされ、逆に理解度の低かった地歴・公民、理科では後者オの取組がなされていたことは、生徒の実態に即した適切な授業改善が行われていることの証左であるように感じた。

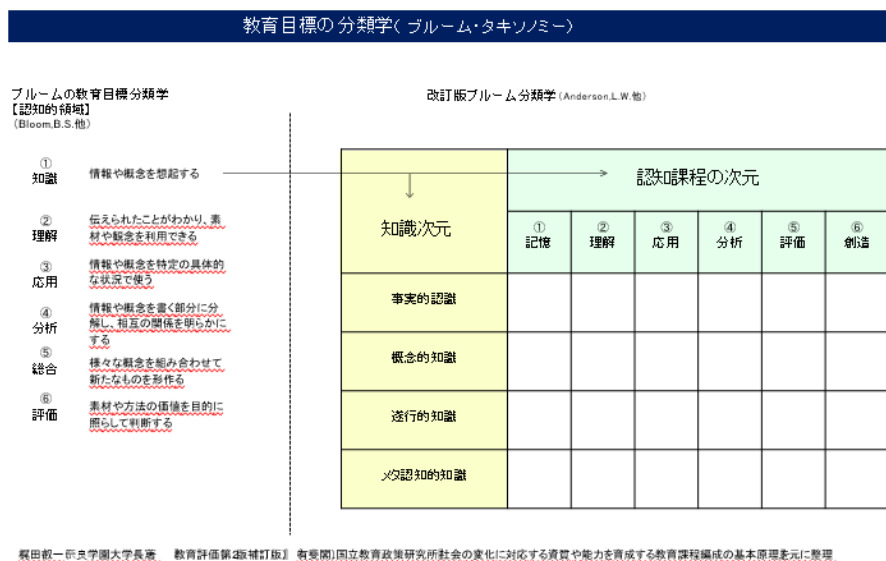


図6 改訂版ブルーム・タキソノミー

さらに今後のICT活用の可能性として、たとえば地理Bにおいては、表をグラフ化することにより可視化する取組が行われていたが、このような理解支援のための二次資料の作成を、書道の篆刻における授業で見られたような、反転、拡大・縮小、重ね合わせといったPCの機能の活用によって、複数資料間の比較につなげることで、さらなる思考の深化を狙えるのではないだろうか。

また、日本史Bにおいては、Microsoft Teams を介して配信された授業ノートに各自スマートフォンの画面上で書き込んでいき、ノートの完成を目指していたが、これなどもICT活用の新たな可能性を感じさせるものであった。

### 3 成果

研究授業に先立って11月11日(水)に実施された後期授業アンケートでは、授業理解度にも、またICTの有効性に対する教員の認識や使用頻度に対する生徒の認識にも大きな変化はなく、特段の結論が導けるものとはならなかった。

また、AL型授業の実施率については、教員、生徒いずれの認識においても上昇していたが、これについては新型コロナウイルスによる感染症を取り巻く状況の変化に呼応している部分が多分にありそうで、やはり何らかの結論を導くのは難しいと言えよう。

しかしながら教員対象のアンケートにおいて、「AL型授業を行う際、どのような点を意識しているか」について記述式で問いかけた部分で、前期には「問題」「質問」という語を含む回答が6件見られたのみであったのに対し、後期には「発問」という語を含むものをあわせて回答が11件とほぼ倍増しており（図7）、AL型授業に関する教員の意識は確実に高まっていると思われる。

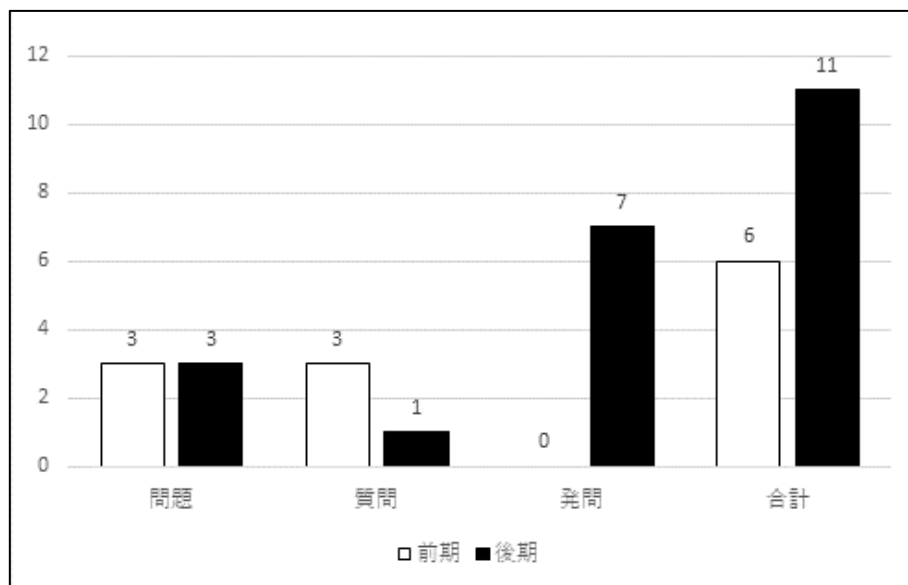


図7 授業アンケート結果比較（前期・後期での推移）

AL型授業をおこなう際、どのような点を意識しているか

何より、本年度は実質的に約半年の期間であったとは言え、全職員が目標を同じくして授業改善に取り組み、その発表の場たる研究授業が楽しく活発な雰囲気の中、行われたことは、今後の継続的な授業改善に向けての礎となる財産であると考えます。

#### 4 課題

1の(2)ア～エについては一定の成果を見ることはできたが、オ、カについては課題が残った。この両者について、以下のようにまとめる。

##### (1) 能動的な学びを通して、基礎学力の向上と定着を図る

地区版実践発表会の指導・助言の中で、教育センター山口英明主任指導主事（総括）からも御指摘いただいたように、いかなる授業改善の取組も、学力の測定と併せてなされなければ教員の自己満足に留まる危険性を孕む。その点において今回の研究報告書は、あくまでも道半ばでの経過報告といったものを超えない。

取組に先立って、研究実践の結果を検証するに当たっては、第一に、事前・事後のアンケートによるという方法を選択したことと、実質的に測定可能な取組期間が3カ月に留まることから、学力変動の測定を併せて行うことは困難であると判断した。そのことによって、実践を進めていくにつれて、それ以外にも正確な学力測定を阻害する要因が存在することに気付かされることとなった。

例えば、難易度の問題がその一例である。一般的に言って、年度当初より後半の方が取り扱う単元の難易度は高く、そのため何らかのテスト等を行っても、その得点率の推移は直接的に学力の向上や低下を意味しない。

また、公平性の原則から言って、特定のクラスである取組を行い、別のクラスでは行わないといった対照実験を行うことができない以上、学力の推移に対して影響のある要素を限定して抽出することは本質的に不可能である。

具体的な解決策の見えない学力測定ではあるが、それゆえに専門家からの支援を切に期待する。

今後は大学アドバイザーの役割として、これまでのような研究の方向性の提示や全体的な助言に加えて、現場実態に即した学力測定の手法を教示いただいたり、我々教員が行う種々の活動を、専門的に分析・定義していただいたりすることを期待したい。それにより、我々自身が自らの教育活動の意義について再認識し、より良い改善につなげていくこともできるであろうし、その成果をできるだけ客観的に検証することもできるであろう。

(2) 生徒の主体性評価の方策について検討し、本校観点別評価の改善につなげる

今回の研究実践を通して、主体性評価は言うまでもなく、それ以外の観点についても改めて評価規準を見直す必要があることが明らかになった。

来年度に向けてはまず、国立教育政策研究所による「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」に準拠する形となるよう各教科に修正を求め、令和4年度新学習指導要領の実施に備えたい。

本校では目標準拠型の観点別評価実現を目指し、生徒に対して評価規準を事前に周知したうえで、観点別の成績個票も配布している。しかしながら、現状においては評価規準の設定が学期ごとになされており、複数の評価資料に係る評価が観点ごとに一まとめで示され、個別に確認できるようにはなっていない等、きめ細かさに欠ける部分がある。生徒へのフィードバック性を高め主体性の涵養につなげるためにも、評価規準の設定を単元ごとに行うことや、成績個票の体裁を変更することについても検討していきたい。

今回の研究実践を通して得られた知見を全体で共有し、見出された課題に取り組んでいくことで、更なる授業改善と、より良い評価方法の確立に努めていきたい。



## 外国語科（コミュニケーション英語Ⅰ）学習指導案

学校名 福岡県立太宰府高等学校  
 指導者 教諭 浦塚 理恵  
 実施日 令和2年12月9日（水）4時限  
 実施学級 第1学年2組31名  
 実施場所 1年2組教室

### 1 単元名

Lesson 5 Laughter Is the Best Medicine 【Vivid English communication Ⅰ（第一学習社）】

### 2 単元設定の理由

#### ○ 単元（題材）観

本単元では、健康と笑いを取り上げる。平均寿命が延び、日本国内で100歳以上の高齢者は2020年時点で8万人を超えている。いつまでも健康で幸せに暮らせるのかを研究している人たちの取組を紹介している。とりわけ、「笑いヨガ」や医療における「笑い」といった具体例を通して、笑いが自分たちの日常生活にどれほど大きな役割を果たしているのかを読みとらせる。また、心と体の健康についての自分の考えを簡単な英語で表現させたい。具体的には次のことができるようにする。①英単語や熟語、フレーズの意味を理解し、適切に発音できる。②本文内容をポスターやメモといった形式にリプロダクションすることで、話の概要や要点を捉えることができる。③心と体の健康を保つための取組について、自分の考えを35字程度の簡単な英語で表現することができる。

#### ○ 生徒観

本クラスは特進クラスである。ほぼ全員が大学進学を目指しており、医療・福祉・教育などの人と関わる分野に関心がある生徒が多い。英語力に関しては、中学時の英単語の発音や意味を身に付けていない生徒がほとんどである。しかし、英語学習には意欲的で、ほぼ全員が1年次に英検3級を取得したいと考えている。11月のアンケートでは、英語が「わかった」時に達成感を感じるや楽しいという理由で、クラスの78%が英語が好きであると回答した。一方、22%が英語が嫌いであると回答したが、それは英単語を覚えるのが苦手という理由からであった。英語に対して強い苦手意識を持っているが、進路実現のため何とか身に付けたいという気持ちがうかがえる。資格取得や大学受験に向け、和訳に頼らず自ら考え英文理解に取り組めるようにワークシートを工夫したい。また、学習形態を工夫したり、ICTを活用した反復練習や視覚的支援を提供したりしながら、生徒の関心を高め達成感を感じられるようなわかる授業を展開していきたい。

#### ○ 指導観

本単元の指導に当たっては、インプット・インテイク・アウトプットのサイクルで英文内容理解を深めさせる授業を展開する。まず、英単語・熟語・フレーズを反復練習でインプットさせ、さまざまな音読活動でインテイクさせる。そして、思考力を養うアウトプット活動を取り入れる。①の力を鍛えていくために、単語・熟語・フレーズをスライドによるフラッシュカードを用いて、クイックアンドレスポンスで練習させた後、ペア練習でその定着を図る。また、5種類の音読活動を通して、頭の中で日本語を英単語に瞬時に変換できるように訓練させる。次に、②の力を鍛えていくために、本文内容をポスターやメモの形式にリプロダクションさせ、話の概要や要点を整理させる。その際、ICTによる視覚的な支援をしながら、思考力を養う。③の力を鍛えるために、まず、演習問題を通して、英単語・熟語、英文法を確認させる。身に付けた英単語・熟語や英文法を活かして、自分の考えを表に整理させた後、35字程度の英語で表現させる。また、ペアワークで意見交換させ、他者の考えを学ばせる機会を設けたい。毎時間振り返りの時間を設け基礎・基本の定着を図り、そこから考える力の向上へとつなげる授業を組み立てていく。

### 3 単元の目標

- ①英単語の意味を理解し、適切に発音することができる。
- ②本文内容をポスターやメモの形式にリプロダクションすることで、話の概要や要点を捉えることができる。
- ③「健康に良いこと」に関する自分の考えを既習の英単語・熟語や英文法を用いて35字程度の英語で表現し、ペアで積極的に意見交換しようとする。

### 4 単元の評価規準

| ア 関心・意欲・態度                        | イ 外国語表現の能力                                                                      | ウ 外国語理解の能力                                 | エ 知識・理解                                                           |
|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| ○ペアで、既習の英単語・熟語を使って積極的に意見交換しようとする。 | ①英語の音声的な特徴を捉えて、音読することができる。<br>②「健康に良いこと」に関する自分の考えを、既習の英単語・熟語や英文法を使って表現することができる。 | ○健康と笑いについての話を読んで、その概要や要点を捉え、英語で説明することができる。 | ①英単語の音声的な特徴を理解し、発音できる。<br>②本文に用いられている英単語・熟語や英文法などについての知識を身に付けている。 |

5 単元の指導と評価の計画

| 次 | 配当時間      | ○学習内容 ・ 学習活動                                                                         | 評価規準 |   |   |   | 評価方法                 |
|---|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------|------|---|---|---|----------------------|
|   |           |                                                                                      | 関    | 表 | 理 | 知 |                      |
| 一 | 1         | ○Part 1～3：笑いは最良の薬である<br>・英単語や熟語、フレーズの意味を確認し、文中にマーカーでラインを引く。<br>・ターゲット文法を含む文の構造を確認する。 |      |   |   | ② | ノートの記述分析             |
| 二 | 1         | ○Part 1：笑いの効果<br>・Q&R や音読で単語・熟語・フレーズを覚える。<br>・リプロダクション活動で、話の概要や要点をまとめる。              |      |   | ○ |   | 様相観察<br>振り返りシートの内容分析 |
| 三 | 1<br>(本時) | ○Part 2：笑いヨガ<br>・Q&R や音読で単語・熟語・フレーズを覚える。<br>・リプロダクション活動で、話の概要や要点をまとめる。               |      |   | ○ |   | 様相観察<br>振り返りシートの内容分析 |
| 四 | 1         | ○Part 3：医療に用いられる笑い<br>・Q&R や音読で単語・熟語・フレーズを覚える。<br>・リプロダクション活動で、話の概要や要点をまとめる。         |      |   | ○ |   | 様相観察<br>振り返りシートの内容分析 |
|   | 1         | ○Part 3：医療に用いられる笑い<br>・個別に音読テストをする。                                                  |      | ① |   | ① | 音読シートでの個人評価          |
| 五 | 1         | ○現在分詞・過去分詞・関係代名詞（主格）<br>・文法問題を解く。                                                    |      |   |   | ② | ノートの記述分析             |
|   | 1         | ○「健康に良いこと」<br>・自分の考えを英語で書き、ペアで意見交換する。                                                | ○    | ② |   |   | 様相観察<br>プリントの記述分析    |

6 本時（第三次）

(1) 本時の指導目標

- ・笑いヨガについての英文をポスター形式に書き換えることでその概要や要点を捉え、笑いヨガがどんなものかを簡単な英語で説明することができる。【外国語理解の能力】

(2) 本時の手立て

- ・ICTを用いたクイックアンドレスポンスによる反復練習で基本的な単語・熟語・フレーズの定着を図る。
- ・ICTを活用したさまざまな音読活動で、単語・熟語・フレーズの内在化、日英変換能力の向上を図る。
- ・ICTの視覚的支援を提供しながら、話の概要や要点をポスター形式で項目ごとに簡潔にまとめさせることで、英文の内容理解を図る。

(3) 教材

- ・教師『Vivid English communication I』（第一学習社）、英和辞書、プリント、スライド
- ・生徒『Vivid English communication I』（第一学習社）、英和辞書、プリント、ノート

(4) 学習の展開

|    | ○学習内容 ・ 学習活動                                                                                                                                          | 時間<br>配当 | 学習<br>形態 | 指導上の留意点                                                                       | 評価規準<br>(評価方法) |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 導入 | ○本時の目標<br>・スクリーンに英語で提示された本時の目標を見て理解する。                                                                                                                | 1分       | 一斉       | ・生徒の反応を見て、日本語で補足する。                                                           |                |
|    | Today's goal: To be able to explain in English what "Laughter Yoga" is.                                                                               |          |          |                                                                               |                |
|    |                                                                                                                                                       |          |          | ・常に本時の目標を意識させるために、目標を英語で板書する。                                                 |                |
| 展開 | ○Quick&Response<br>・プリントにある単語・熟語・フレーズをスクリーンのフラッシュカードを見ながら全員で声に出し、発音練習する。<br>単語：combination など<br>熟語：at first など<br>フレーズ：deep breathing exercise(s) など | 3分       | 一斉       | ・一斉に単語を確認した後、もう一度発音させ、全員が確実に発音できるようにする。<br>・生徒の声の大きさや表情から判断し、必要であれば繰り返し発音させる。 |                |

|                                                                                                                                                                                         |                     |                     |                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアを作り、全体で練習した単語・熟語・フレーズの発音・意味・スペルに関して問題を口頭で出し合う。その際、答える側は、ノートを閉じる。</li> <li>・ノートを閉じた状態でフラッシュカードを見ながら、クイックアンドレスポンスで単語・熟語・フレーズを再度発音する。</li> </ul> | <p>3分</p> <p>2分</p> | <p>ペア</p> <p>一斉</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・曖昧な発音がないか、机間指導をする。</li> <li>・間違いの多い発音や覚えにくい単語などは、全体で確認する。</li> <li>・生徒の声の大きさや表情から判断し、必要であれば繰り返し発音させる。</li> <li>・難しい単語は数名指名し、発音させる。</li> </ul> |
| <p>○本文の音読</p> <p>《スラッシュリーディング》</p>                                                                                                                                                      | <p>2分</p>           | <p>一斉</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでの音読活動に備えしっかり練習するよう事前に伝える。</li> </ul>                                                                                                       |
| <p>《ペアリーディング》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアを作り、一人が先生役、もう一人が生徒役になり音読する。生徒役は何も見ずに先生役の後に続きリピートする。役割を交代し、音読を繰り返す。起立した状態で行う。</li> </ul>                                     | <p>5分</p>           | <p>ペア</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの発音に注意を払っているかどうか、机間指導をするが、正しい発音であるかよりも積極的な姿勢を重視する。</li> <li>・音読が苦手な生徒には個別に指導する。</li> </ul>                                                  |
| <p>《サイトラリーディング》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンを見ながら、教師が日本語で言った部分を英語にする。</li> </ul>                                                                                   | <p>3分</p>           | <p>一斉</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の反応に応じて繰り返し音読練習を入れる。</li> </ul>                                                                                                             |
| <p>《虫食いリーディング》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアを作り、一人がスクリーンを見ながら音読する。もう一方は、相手が音読できているかノートを見ながら確認し、音読できていない箇所についてはヒントを与える。役割を交代し、音読を繰り返す。起立した状態で行う。</li> </ul>             | <p>5分</p>           | <p>ペア</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく発音できているか机間指導をする。</li> <li>・多くの生徒がつまずいている箇所については、全体で確認する。</li> </ul>                                                                        |
| <p>《消えるリーディング》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンを見ながら、文字が消えてしまう前に音読する。レベル1では英文のみ、レベル2では日本語を交えた本文を音読する。</li> </ul>                                                       | <p>3分</p>           | <p>一斉</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が本文音読のどこでつまずくかに注意を払う。</li> <li>・生徒の声が小さくなった箇所の単語の意味・発音を確認する。</li> </ul>                                                                     |
| <p>○リプロダクション</p>                                                                                                                                                                        | <p>5分</p>           | <p>個人</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の状況を見て、ポスターの項目は、本文の段落ごとにまとめられているというヒントを与える。</li> </ul>                                                                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター形式に変換したものとその根拠となった箇所について、ペアで意見交換する。</li> </ul>                                                                                              | <p>2分</p>           | <p>ペア</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠箇所にラインが引かれているか机間指導する。</li> <li>・特に第3段落目は、2つのセリフの部分に着目させ、答えを導く。</li> </ul>                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で答え合わせをする。挙手し、答えとその根拠となった本文中の箇所を述べる。</li> </ul>                                                                                               | <p>4分</p>           | <p>一斉</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が述べた根拠箇所について、スクリーンに提示した本文中にラインを引き、視覚的支援を行う。</li> </ul>                                                                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーン中のポスターを見ながら英文を音読する。</li> </ul>                                                                                                             | <p>2分</p>           | <p>一斉</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現を徹底的に覚えさせるため、生徒の反応を見て、スクリーン表示を消す。</li> </ul>                                                                                                |
| <p>○振り返りシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに記入する。</li> </ul> <p>(合計10点満点)</p> <p><b>TF 問題各1点:</b></p> <p>1. Laughter Yoga is done only with</p>                     | <p>4分</p>           | <p>個人</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・TF問題はスクリーンに提示し、問題の音声を流す。</li> </ul>                                                                                                           |

|                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                         |                         |                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>breathing exercises.(F)<br/> 2. Thanks to the immune system, people will become sick easily.(F)<br/> 3. Laughter Yoga has been popular.(T)<br/> <u>単語記述問題 1点:</u><br/> 4. 「組み合わせたもの」 (combination)<br/> <u>英文記述問題 1点:</u><br/> 5. 「あなたはより元気に感じる」<br/> (You feel more energetic.)<br/> <u>自己評価 2点/3点:</u><br/> 6. Did you participate actively in this class?<br/> 7. Did you understand today's lesson?</p> <p>・全体で答え合わせをし、正答した点数と自己評価の点数を合計し、提出する。</p> <p>○本時の目標に対する振り返りを行う。<br/> ・ペアを作り、スクリーンに提示された「笑いヨガ」の説明文の空欄に入るものを英語で話す。<br/> ・全体で、その空欄に入るものを確認する。</p> | <p>2分<br/>2分<br/>1分</p> | <p>一斉<br/>ペア<br/>一斉</p> | <p>・生徒の反応を見て、問題音声を繰り返し流す。</p> <p>・単語記述問題については、口頭で出題する。<br/> ・英文記述問題については板書し、口頭でも指示する。</p> <p>・積極的な参加については2点満点で、理解度については3点満点で自己評価させる。</p> <p>・TF問題の答えはスクリーン、単語・英文記述問題の答えは黒板で提示する。</p> <p>・分からない生徒に対してはノートを見るように指示する。</p> <p>・スクリーンに答えを提示し、生徒の理解を確認する。</p> | <p>本文の概要や要点を捉え、その内容を英語で説明することができる。<br/> (様相観察)<br/> (振り返りシートの内容分析)</p> |
| <p>What is "Laughter Yoga"? :<br/> "Laughter Yoga" is a <b>(combination)</b> of <b>deep breathing exercises</b> and <b>laughter exercises</b>.<br/> Thanks to "Laughter Yoga", you feel <b>more energetic</b> and you will not <b>become sick easily</b>.</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                         |                         |                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                        |
| <p>まとめ</p>                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>・本時の目標を達成できたかを挙手する。<br/> ・次回の授業内容について確認する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>1分</p>               | <p>一斉</p>               | <p>・授業後、振り返りシートの自己評価でも生徒の理解度を確認する。</p>                                                                                                                                                                                                                   |                                                                        |

\*コロナ感染症拡大防止のため、マスクの着用を徹底する。また、ペアワークの際は、換気をこまめに行う。